滋賀・南滋賀（みなみしが）遺跡

1　所在地　滋賀県大津市南志賀三丁目
2　調査期間　一九九五年（平7）四月～六月
3　発掘機関　大津市教育委員会
4　調査担当者　青山　均
5　遺跡の種類　墓地・集落跡
6　遺跡の年代　紀元前一世紀～一二世紀
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

南滋賀遺跡は、大津市の湖西地域に位置し、その範囲は京阪電鉄石坂線南滋賀駅を中心に東西約七〇〇m、南北約六〇〇mを占める。

（京都東北部）

この地は、軟弱な花崗岩を主層とする比叡山系から湖岸に向って流れる中小の河川によって形成された複合扇状地であり、南北に細長く幅の狭い起伏のある地形をなしている。

この南滋賀遺跡の西部には、川原寺式伽藍配置をもつ白鳳時代寺院の南滋賀町廃寺がある。

今回の調査は、民間の宅地造成に伴うものであり、調査地は南滋賀遺跡の東端付近にあたる。調査面積は約五一〇㎡である。調査の結果、主要な遺構として、六世紀後半～七世紀前半頃と考えられる掘立柱の柵列一条、掘立柱建物三棟、七世紀中葉～後半頃の溝一条をそれぞれ検出した。

遺物は、整理用コンテナで三八箱である。内容的には、土師器、須恵器・瓦の他に、下駄・コテ状木製品・ウキ状木製品・斎串などが出土している。

木簡は溝から一点出土した。この溝は幅二～四mで、深さは最も深いところで〇・七mを測る。この木簡以外に木簡状木製品が一点出土している。

8　木簡の釈文・内容

(1)・「く□□□下□□□□□□□□〔月カ〕

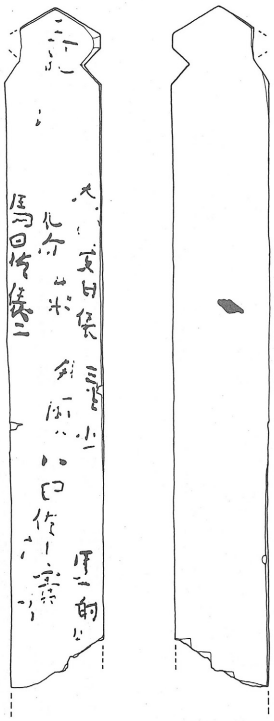
・「く　□□□□俵□□□小□　□馬射□
　三□□□　□□□人□□　□□□□□曰佐上□俵
　　馬曰佐俵二　□□□□□□□□
(212)×30×4　039

木簡の形態は、上端を圭頭状に作り、左右の側縁に切り込みが入る。下端は欠損している。木簡の文字は墨色が淡く、判読しがたい部分が多いが、「馬曰佐俵二」などの文字が認められることから、

貢進物の付札であったと考えられる。木簡に伴って出土した土器から、七世紀後半頃のものであると推定される。

大津市域における七世紀の木簡の出土は、北大津遺跡の木簡（『日本古代木簡選』岩波書店、一九九〇年）に次いで二例目であり、当遺跡の南約一kmに所在する錦織遺跡（近江大津宮跡）を含め、七世紀後半の大津の状況を考える上で、貴重な資料となる。

なお、釈文は橋本義則氏にご教示いただいた。



（青山　均）